



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第1号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

### 【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:「明日のことを思い煩わない」
- ◎聖書と文学:三浦綾子「氷点」から
- ◎世界の偉人と聖書:リンカーン
- ◎科学と聖書:「聖書は地球の傾きを語っていた！」
- ◎箴言から学ぼう! :「主を恐れることは知識の初め」
  - ◆◆「箴言」とは何??◆◆
- ◎聖書の視点から「死後」について考える:「死後のさばき」
  - ◆◆聖書が語っている「死後の世界」とは?人は死んだら、どうなるの??◆◆
- ◎キリストを信じた体験談:「危険から守られた」
- ◎ご案内

### ＜聖書からのメッセージ＞ 「明日のことを思い煩わない」

〔聖書箇所〕マタイの福音書6:25-34

6:25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

6:26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。

6:27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

6:28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆり

がどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

6:30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

6:32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはす

## 聖書からのメッセージ:「明日のことを思い煩わない」

べて与えられます。

6:34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

### 【解説】

正直、私たちの生活は不安に満ちています。長らく続く不況、そして消費税は上がり、物価も高騰する時代：いったい、どうやってこの時代を暮らしていったらよいのか？先行きを考えてと色々不安の多い私たちです。しかしイエスは、「自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。」と語ります。さらに、「空の鳥を見なさい」と語ります。

彼ら鳥たちは農家のように、畑に種を蒔いたり、はたまた、収穫期になったからといって、畑で、耕運機で刈り取りをしているわけではない、しかしだからといって、鳥が餓死しているか？と言うとそうでもなく、皆元気に飛び回っている、そう語るのです。そう言えば、そうです。鳥は我々のように就職活動をせずとも、商売もせずとも、食べていけているようです。たしかに我々より、うらやましい存在です。

その理由として、「けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。」とイエスは語ります。すなわち、天の父なる神が小さな鳥にも目を注ぎ、その鳥が食べるもの、必要なものを用意してくれる、だから食べていける、とイエスは語るのです。そして私たち人間への教えとして、「あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。」と続けて語ります。すなわち、とるに足りない小さな鳥さえもおもんばかり、配慮される神が鳥よりもさらに優れた人間に対して、おもんばかってくださることを信頼し、知りなさいとイエスは語るのです。

さらに、私たちの心配事はたとえば、私たちの寿命のことだったりするのですが、それに対してイエスは、「あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。」と語ります。また、私たちの心配

事はいわゆる衣食住のことなのですが、それに対しても、「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。」と語ります。それでは私たちは何を心配し、何に心を用いるべきなのでしょう？

その問いに対してイエスは、結論としてこう答えるのです。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」と。

まず、人生におけるもっとも大事なこととして、「神の国とその義」を一番に求めなさい、そうすれば、多くの人の心配のもと、重要事である、衣食住のことは、「それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」と語ります。要するに私たちの心配事に対して、重要度や優先順位が違うことを語っておられるのです。

これらのことばは、理想的なことば、きれいごとに見えるかもしれませんが、本当です。

個人的な話で恐縮ですが、私もこの世で一家の働き手、夫として、父として仕事をしてきました。その仕事の中で聖書を信じる者としての心がけは、上記に書かれているように、まず「神の国と神の義」を求めることでした。教会へ通うために、日曜日は仕事を断り、またキリストの教えや教会の奉仕を優先して仕事を行ってきたのです。それでどうなったか？と言うと、首になったり、左遷されたか？と言うとそうではなく、ずっと我が家の経済は守られてきました。聖書のことばは真実であることを知りましょう。



天の父は鳥をも、かえりみられる

# 聖書と文学：三浦綾子著「氷点」

## ＜聖書と文学コーナー＞「氷点」

聖書は世界中の人々の生き方や考え方に感銘や影響を与えた書です。その影響を少しずつ紹介していきましょう。今回は、クリスチャン作家、三浦綾子の著書「氷点」の紹介です。朝日新聞の1,000万円懸賞小説に当選した、「氷点」は、作家三浦綾子のあざやかなデビュー作です。

あらすじ：（『氷点』）昭和21年（1946年）、旭川市在住の医師辻口啓造は、妻の夏枝が村井靖夫と密会中に、佐石土雄によって3歳の娘ルリ子を殺される不幸に遭う。啓造は夏枝を詰問することもできず、内に妬心を秘める。ルリ子の代わりに女の子が欲しいとねだる夏枝に対し、啓造はそれとは知らせず殺人犯佐石の娘とされる幼い女の子を引き取る。女の子は陽子と名付けられ、夏枝の愛情を受けて明るく素直に育つ。

陽子が小学1年生になったある日、夏枝は書齋で啓造の書きかけの手紙を見付け、その内容から陽子が佐石の娘であることを知る。夏枝は陽子の首に手をかけるが、かろうじて思いとどまる。しかし、もはや陽子に素直な愛情を注ぐことが出来なくなり、給食費を渡さない、答辞を書いた奉書紙を白紙に擦り替えるなどの意地悪をするようになる。一方の陽子は、自分が辻口夫妻の実の娘ではないことを悟り、心に傷を負いながらも明るく生きようとする。

辻口夫妻の実の息子である徹は、常々父母の妹に対する態度を不審に思っていたところ、両親の言い争いから事の経緯を知る。両親に対するわだかまりを持ちつつ、徹は陽子を幸せにしたいと願う。その気持ちは次第に異性に対するそれへと膨らむが、陽子のために自分は兄であり続けるべきだという考えから、大学の友人である北原邦雄を陽子に紹介する。

陽子と北原は互いに好意を持ち、文通などで順調に交際を進める。しかし、陽子が高校2年生の冬、夏枝は陽子の出自を本人と北原に向かって暴露し、陽子は翌朝自殺を図る。その騒動中、陽子の本当の出自が明らかになる。表題の「氷点」は、何があっても前向きに生きようとする陽子の心がついに凍った瞬間を表している。その原因は、単に継母にひどい仕打ちを受けたという表面的な

ものではなく、人間が生まれながらにして持つ「原罪」に陽子が気付いたことであると解釈される。陽子の心にも「氷点」があったのです、と言う科白が最大のポイントかと思えます。どんなことがあろうと、いつでも陽光の道を堂々と歩き、恥じない人生を送る、と心に決めていた陽子が、そういう自分自身に流れる殺人犯の血、変えることのできない根源的な罪の血を知った時、自分に絶望して死を選ぶようになったわけなのです。

「氷点」とは、今まで液体だった水が凍る瞬間の温度です。同じように、人の心にも「氷点」がある、どれほど自分に自信を持って生きてきても、その自分自身の頼りなさを知る瞬間や時がある、すなわち、「氷点」がある、そしてそれこそが、その人が真に神の前に歩むときの出発点になる、そう作者は語りたかったのかもしれませんが、聖書は氷点ということばこそ使いませんが、しかし、人が自分自身の生まれつきの弱さ、罪深さを知ることに関しては繰り返し語ります。たとえば、以下のダビデ王の心の告白は有名です。

### 〔聖書箇所〕詩篇51:5,7

51:5 ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。

51:7 ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。”

このダビデの告白のように、聖書によれば、私たちは生まれつき、罪の中に生まれた存在です。しかし、それをもって、絶望しろ、ということが主旨ではなく、「私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。」と書かれているように、そのような原罪のある私たちの心も神によって洗いきよめられる、ということが聖書の結論です。このことをも知りましょう。



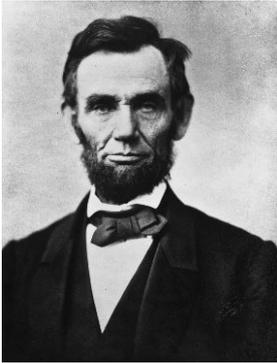
氷点の一場面

# 聖書と偉人:リンカーン/聖書と科学:聖書は地軸の傾きについて語る

## <聖書と偉人>

### アブラハム・リンカーンのことば

「私は聖書を神が世の始め以来、人類にあたえた最上の賜物と信じる。世界の救い主から発する一切の良きものは、この書を通して人々に伝達されるものである。」



アブラハム・リンカーン

## <聖書と科学>

### 「聖書は地球の地軸の傾きさえも述べている」

このコーナーでは「聖書と科学」として、聖書の科学的側面を見ていきましょう。“聖書は科学的な書である、聖書は現在の科学とも矛盾しない、否、現在の科学の上を行くほど、厳密な書である”と、そんな風に聞いても簡単には、「そうですか」と受け入れられないかもしれません。しかし、実は聖書は驚くほど科学的な、誤りのない書なのです。このことを少しずつ見ていきましょう。今回は、聖書は地軸の傾きに関して述べている、ということを知りましょう。

まず、聖書はこの地球が「地球」であることを2000年以上の昔から述べています。以下の通りです。

#### [聖書箇所]イザヤ書40:22

40:22 主は地球のはるか上に座して、地に住む者を

いなごのように見られる。主は天を幕のようにひろげ、これを住むべき天幕のように張り、(口語訳聖書)

さらにヨブ記では、地軸が傾いていることまで述べています。

#### [聖書箇所]ヨブ記26:7

26:7 神は北を虚空に張り、地を何も無い上に掛けられる

ここで、「張る」と訳されたことばは、原語のヘブル語では「ナーター」これは聖書の別の箇所では「傾ける」とも訳されていることばです。ですから、「張り」を「傾ける」と訳し直すなら、この句は次のようになります。

#### 「神は北を虚空に傾け…」

これは地球において、「北」の方角が傾いていることを示しているもののように思えます。地球の地軸は宇宙空間の中で、軌道面に垂直な方向から23.5度傾いているのです。よく知られているように、地球において春夏秋冬の四季があるのは、地軸のこの傾きがあるからです。つまり、このヨブ記のことばは、地球が何も無い宇宙空間に浮かんでいるということだけではなく、地球の地軸が傾いた状態に置かれているということをも、みごとに言いあらわしているのです。このように聖書の多くの記述は、科学的なのです。



地軸の傾き

# 箴言から学ぼう！：「主を恐れることは知識の初め」

## <箴言から学ぼう！>

### 「主を恐れることは知識の初め」

#### ◆◆「箴言」とは何？◆◆

こちらのコーナーでは、シリーズで旧約聖書の「箴言」ということわざの巻からいくつかの聖句を引用して、メッセージを伝えていきたいと思っています。クリスチャン、ノンクリスチャンに関わらず、日常生活等において少しでも何かお役に立てることを書かせていただきたいと思います。

さて、聖書を一度も読んだことの無い方は、結構多いと思います。でも時としてノンクリスチャンの方でも、学生時代にキリスト教を学んだり、過去友人から誘われて教会に行って聖書を目にした、なんていう方もいらっしゃるかもしれませんが、はじめて聖書のことばに触れる、という方を対象に少し説明をしたいと思っています。

聖書は旧約聖書と新約聖書を合わせて、全部で「66巻」あります。そして「箴言」はその中の1巻になります。ちなみに聖書という書物は神さまの靈感によって書かれたものなので、すべて神さまのことばであります。世の中にも多くの書物がありますが、全て人が書いたものですよ？でも、唯一聖書だけは人ではなく、神さまが書かれたものなのです。厳密に言うなら、神さまが御使いや人を通して書かれました。ですから当然「箴言」の著者も神さまなのです。そして神さまはこの「箴言」の書を、当時イスラエルの王であったダビデの子であるソロモンに託されました。それで「箴言」とは、どういう書なのか？と言うと、ズバリ！「知恵の書」であります。下記、聖書のことばをご覧ください。

#### [聖書箇所]箴言 1:1-4

- 1:1 イスラエルの王、ダビデの子、ソロモンの箴言。  
1:2 これは、知恵と訓戒とを学び、悟りのことばを理解するためであり、  
1:3 正義と公義と公正と、思慮ある訓戒を体得するためであり、  
1:4 わきまえない者に分別を与え、若い者に知識と思慮を得させるためである。

たしかにこの世の中にも多くの優れた知恵が

あります。しかしそれらのほとんどは、人が考え出したものです。なので時として誤りや間違えもあるかもしれません。また、時代が進むと適合しなくなる、なんていうものもあります。そういったことから、人の知恵にはどうしても限界があると言えます。しかし、神さまの知恵はそうではありません。神さまは人と違って無限のお方ですし、誤りや間違いが一切ありません。つまり全てにおいて正しいので、しかもどの時代においても有効なので、100%信頼して大丈夫なのです。すばらしいですよ？！さらに言うなら、神さまの知恵を用いていくときに、「ハズレ」がありません。神さまの知恵を学んで言われた通りに行こうなら、「失望」することが無いのです。信じて実践するなら、裏切られることはないのです。そういう意味でも、この世の知恵とは大分違うということがお分かりになりますよね？？そのような神さまの素晴らしい知恵について、少しずつでも共に学んでいけたらいいなあと思います。せっかくですので、少し見てみましょう。

#### [聖書箇所]箴言 1:7

1:7 主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

「主を恐れることは知識の初めである」と書かれていますように、私たちは神さまの知識や知恵を得るために、まずは主（神さま）を恐れると思います。ちなみに主（神さま）を恐れるとは、どういうことなのか？と言うと、同じ箴言の16章にありますように、「**悪を離れる**」ことです。そのことによって神さまから、主（神さま）を恐れる者と見なされて、知恵や知識が注がれますので、よろしければ、ぜひ実践してみてください。次回以降はもう少し詳しく見ていきたいと思っています。



神を恐れる

# 聖書の視点から「死後」について考える:「死後のさばき」

## <聖書の視点から「死後」について考える>

### 「死後のさばき」

◆◆聖書が語っている「死後の世界」とは？人は死んだら、どうなるの？◆◆

人が亡くなったときに耳にすることばですが、「あの人は今頃天国にいる」なんていうことが言われます。たしかにキリスト教において、あるいは聖書において、「天国」は存在します。しかし、聖書はそれだけではなく、「地獄」の存在についても語っています。もしかするとそれはキリスト教だけではなく、他宗教でも言われているのかもしれませんが。ただ、誰かが亡くなったときに往々にして言われるのは、どちらかと言えば「天国」ということばではないでしょうか？「地獄」の話はあまり耳にしません。それは縁起でもないからなのでしょう。もちろん誰が何をどんな風に思い、考え、はたまた何を話す、なんていうことは自由ではありますが、もし、「死後の世界」や「人の死後」に関して何らかの興味をお持ちでしたら、ぜひお読みいただけたら・・・と思います。まず、「死後」の世界について聖書は以下のように語ります。

#### [聖書箇所]ダニエル 12:2

12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

下線の部分に目を留めていただきたいのですが、死後は二つの運命があります。「ある者は永遠のいのち」と書かれていますように、「天国」に入る人がいます。一方、「ある者はそしりと永遠の忌み」とありますように、「地獄」に入れられてしまいます。聖書では「地獄」のことを「火の池」とも呼んでいます。しかも「永遠」とありますように、両者共にエンドレス、つまり「天国」も「地獄」も終わりが無いということです。誰しも「地獄」になんて行きたくないのですが、しかしどちらに入るかは、残念ながら私たちが選ぶことはできません。神さまによって決められてしまうのです。下記、聖書のことばをご覧ください。

#### [聖書箇所]へブル人への手紙 9:27

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさば

きを受けることが定まっているように、

皆さまも御存知のように、人はいつの日か必ず死にます。聖書にも「人間には一度死ぬ」とありますように、残念ながら早かれ遅かれ「死」は全ての人に平等にやってきます。こればかりは避け得ようのないことなのですが、しかし問題は「死後」どうなるのか？です。ある人は「死んだら無になるだけさ」「永遠に眠るだけ」なんて言われるかもしれませんが。でも、聖書ではどのように言っているのか？と言うと、「さばきを受けることが定まっている」とあります。死んで、それで終わりではないのです。「さばき」というと、何だか今ひとつピンと来ないかもしれませんが。ちなみに「さばき」のところは、KJV訳（聖書は原文に近いもの、すなわち古いものほど信頼性があると言われていますが、KJV訳はシェークスピアの時代のもので、普段使用している“新改訳聖書”よりも的確かと思われます）では、“judgment”ということばが使われています。「判定」とか「判断」という意味です。また、別の箇所では、「私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受ける」(第二コリント人への手紙5章10節)と書かれています。「善であれ悪であれ」とありますが、それぞれの行いによって神さまから判断を下されるのです。その判断によって「天国」or「地獄」のどちらかに行くことになるのです。ですから私たちが地上でどんな風に歩みをしたか？ということが事の他、非常に大事だということがお分かりになるのではないのでしょうか？それによって、「永遠」の行き先が確定されるのですから。次回以降は、良い「さばき」（判定、判断）を神さまからいただくためにはどうすれば良いのか？について追々話をしながら、引き続き「死後」について共に学んでいきたいと思ひます。



死後の世界は？

# キリストを信じた体験談:「危険から守られた」E2

## <キリストを信じた体験談> 「危険から守られた」E2

神様により、危険から守られたこととお話したいと思います。

それは、3年前の出来事です。私は普段よく自転車を利用します。その日の夕方、ある所まで行くのに、時間がぎりぎりだったので、私は慌てていました。

交通量の多い東八道路の交差点で青信号を見て、南から北の方へ私は自転車で渡って行こうとしていました。その時、後方から何か人の声がしました。後ろを振り返るとお巡りさんが私の方へ走りながら何か叫んでいました。その声で再度信号を見た時、私が渡りつつある信号が何と赤信号であったことに気づきました。

私は赤信号を気づかずにそのまま道路を渡り、道の真ん中に来て初めて気づいたというわけなのです。

その東八道路の歩行者用の信号は少しわかりづらいものでした。歩行者は2段階に渡って道路を横切るため、2つの信号が備えてあります。私はその2つのうち、低い信号機の色だけを見て渡ってしまい、もう一つの信号が赤だったことに気づかず渡ってしまったのでした。多くの車が通る交通量の多い交差点でしたから、危ないところだったのですが、事なきを得ました。

今、振り返って見てもあの時、あの交通量の激しい道路を赤で渡って何の事故にも会わなかったのは不思議です。

今、思うとその時、不思議なことが一つありました。私は普段、その道路も交差点もよく利用していて、散歩や買い物の時、いつもよく通

る道路だったのです。

しかし、振り返って思い出してみても、今までその交差点でお巡りさんの姿を見たことがありませんでした。そして、とても不思議なことは、私が赤信号で交差点を走っていった、危険なまさにその時だけ、その日、その時間にお巡りさんがそこに立っていたのです。

お巡りさんの姿を認めた他の車の運転手が、その交差点では慎重に運転して、その結果、勘違いして赤信号で走っていた、私が轢かれなかった、とそういう可能性はあるかと思います。

それから、もう一つのことがあります。私がその交差点を渡ったときは夕方に近い頃でした。しかし、そうはいってもまだあたりは暗くはならず、何とか私の姿も車から見える時間帯でした。しかし、これが、もう少し遅くて、周りが暗い時間だったら、赤信号で渡っていた私がトラックの運転手から見えていたか、むしろ見えずに轢かれていた可能性が高いように思えます。

この小さな事件を通して、私は普段から信じているイエス・キリストが、私の普段の暮らしの中でも守りを与えてくださること、自分が不注意で犯した誤りさえ最善に守ってくださることを知りました。

この出来事は私の心が落ち着かず、冷静さを失っていた日の出来事です。これからも神様に感謝することを忘れずに歩んでいきたいと思っています。

**“詩篇127:2あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなしい。主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。”**

# お知らせコーナー

## ●月刊バイブル無料プレゼント！（限定5名様）

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？もし興味があり、購読希望の方はお申し込みください。尚、期間限定サービスとして、申し込み順で5名様までに、本紙、送料共に「1年間無料！」で送付することにします。ご希望の方は以下を記載の上、Mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へご連絡ください。先着5名様に郵送でお送りします。

「月刊バイブル無料サービスに申し込みます。」

住所:

名前:

## ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

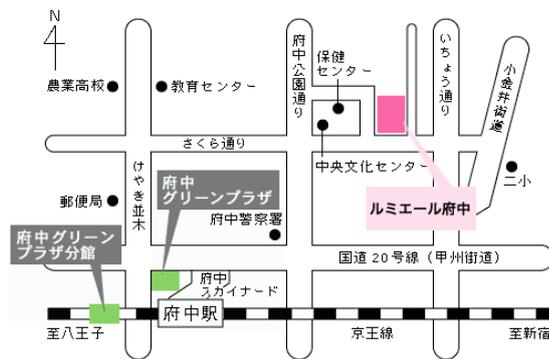
曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, Mail:truth216@nifty.com

礼拝場所の URL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)



## ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>